

第1回協議会で頂いたご意見に対する対応（1/2）

	意見	対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> なぜ今自転車が重要であるかを全員で共有する必要がある。 これまでは安全教育がメインで考えられてきたが、これからは課題を解決するために自転車を活用していくという内容を計画に入れ込んでいく必要がある。 自転車に乗る楽しさ、自転車を利用するための体づくり等の教育が必要である。 自転車に乗ることが格好良い・素敵であるといったプロモーションで自転車競技などを皆さんで楽しみ、イケてる地域・ここに住もうというプロモーションも考えられる。 自転車先進国であるコペンハーゲンでは、早くて格好良くて、乗っていると気持ち良いといった指標をつくって、車より自転車が良く誘導するように自転車道を整備している。人口減少の中で、これまでと違った道のづくり方が必要である。「道まちづくり」という言葉もあり、生活をデザインするといった新たな格好良い街・道のづくり方、道の仕事を作ってみてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「計画策定の背景」に反映します。
2	<ul style="list-style-type: none"> 免許のいない移動手段は、自転車ぐらいしかない。 観光だけではなくて生活交通に自転車を活用するのも重要である。 車中心から人中心の道路づくりが求められている。 人、移動手段、インフラの三位一体で考える必要がある。 ハード・基盤・安全・観光に分かれているが、これらは全てつながっている。 兵庫県が目指す2025年ぐらいの姿を皆さんで共有できるように作っていく必要がある。 今一番の課題である人口減少に対して、交流人口と定住人口を増やすことで都市経営を改善し持続可能な形をつくっていくように考える必要がある。 小中学生は、ほとんどの人が自転車を持っているが、スポーツバイクは、日本の自転車販売台数の中で7～8%しかない。スポーツバイクなどの自転車を一時期で終わるブームではなく、兵庫県の文化として植え付けられるような施策をやっていききたい。 兵庫県は関西の中で唯一、公道を使った国際レースや全日本選手権などが無い。例えば公道を規制して神戸マラソンを実施できるのは文化があるからである。自転車文化を是非この機会につくっていただきたい。 観光振興という言葉は大きな言葉で、もう少しここを各論的に見ていく必要がある。 地域の持続可能な経済の仕組みが地域の方達の小さな喜びにもなり、それが交流を深めていこう、関わっていこうという事にもなり、まさにスローツーリズムの一環でもある。自転車を利用して人と人が触れ合うことで地域の方との出会いを起し、そこに経済の仕組みが生まれるかもしれない。それが受け入れ環境の整備にもなる。もう少し各論的に視点を広げた分かりやすいキーワードを出していくべきである。 県として広域的な視点で何をすべきか、県ならではの方針が示せる計画を策定したい。 自転車は死亡事故が起きるスポーツであるという認識をもつ必要がある。色々整備したが、死亡事故が起きたから自転車はダメだ、ということではない。認識を持ってやるのと、持たずにやるのは全然違う。登山に比べて、自転車はそういう意識が遅れているという話は聞く。登山はもっと危険な状態もあるが、文化として根付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の「将来像」「基本方針」「目標」に反映します。
3	<ul style="list-style-type: none"> 特徴がある、他と違うといったブランド力がとても重要である。イベントは手段・手法のひとつである。観光を進めていくには地域の協力が大切で、オーバーツーリズムと言われるように、自転車がいっぱい走って嫌だなという状況にならないように、住民のホスピタリティを高めていくことも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な目標として検討します。
4	<ul style="list-style-type: none"> サイクルツーリズムは、コンテンツとしての利用と、二次アクセスとしての利用が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ロングライドを楽しむモデルルートに加え、ポタリング等を楽しめる楽しめる地域ルートを創設するとともに、受入れ環境についても施策を検討します。

第1回協議会で頂いたご意見に対する対応（2／2）

	意見	対応方針
5	・行政と協働して取り組んだサイクルガイドの実証実験で課題が認識されており、それらを兵庫県の自転車施策に組み込む必要がある。	・サイクルガイドの養成支援を施策として位置付ける。養成にあたっては、実証実験の課題を踏まえて取り組みます。
6	・サイクルツーリズムの観点からは、自転車関連施設だけではなく、宿泊施設、道の駅のような観光に結びつく様々な場所を対象とする必要がある。	・宿泊施設、道の駅のような観光に結びつく場所も対象に施策を検討します。
7	・外国人観光客の取り込みという課題に対しては、棚田の美しさなどのその場所でしか見られない景色を含むサイクルルートが必要である。	・施策としてポタリング等も楽しめる地域ルートを創設します。
8	・宿泊施設にサイクルラックを置く補助をするだけでも外国人サイクリストの宿泊につながる。そのような施策が全国で増えている中で、兵庫県はいち早く進めてはどうか。	・宿泊施設へのサイクルラック設置について施策として検討します。
9	・新しい概念を出していった方が良い。既存の決まった計画から自転車を書いている部分だけを抜き出して集めたような計画では何も新しいところが出てこない。	・通行空間整備や安全教育など既存施策の推進・拡充を図るとともに、「交流人口拡大」や「健康増進」に向けた新たな施策に取り組みます。
10	・計画年度が2023年とあるが、全てやりきるという意味での年度ではなく、その間でしっかり何をやるか考えるという期間でもある。2年間で方針を考え、新しい取り組みが生まれるような仕掛けを計画の中に入れていただきたい。しっかり決めていくものと、新しいものを出そうといった計画を入れていただきたい。	・計画策定時までに、実施方針が定まらない施策については、目標年度までに実施に向けて検討する期間を設けます。
11	・本計画を策定するための体制づくりが重要である。県の体制、市町村との連携、部局間の体制など、人の繋がりをしっかり考えていただきたい。全て「どこと協力します」としか書いていない計画もあり、そのような計画でもよい。 ・県庁の組織の仕組みにプロデュース機能という部分を取り入れていかないと本当の意味で進んでいかないと思う。多様な部局が一緒になってこの計画をつくるために、プロデュースしていく気持ちを持ってやっていただきたい。	・「実施すべき施策」において、主管部署を明記します。また、関係部局で構成されたWGを設置し、連携・協力します。
12	・現状でもう少し問題を明確にする必要がある。交通分担率が自動車に偏っている状況を踏まえ環境にやさしい自転車の利用を促進する、観光客の移動手段はどうなっているのか、免許返納者が増加し移動に困っていないか、自転車を利用するための体づくりの必要性、自転車通勤への手当など、社会的な背景を踏まえた分析が必要である。 ・自転車の安全に関する啓発や教育など、各部署が各年代に対して何をしているのかを見える化した表を作ってほしい。次回は、それを踏まえて議論したい。 ・川西市では、道路政策課、交通安全協会、警察署とのチームで幼児から高校まで一貫した自転車教育をしている。	・資料を追加します。